

大腸がん検診特別推進事業始まる！

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

- 日時 平成22年8月28日（土） 午後2時～午後3時40分
- 場所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 23人
岡本健対協会長、古城部会長、木村委員長
秋藤・遠藤・大口・岡田・尾崎・音田・岸・田村・富田・
長井・松本・八島・山本・吉中各委員
県健康政策課：下田副主幹、田村主事
オブザーバー：生田米子市健康対策課主幹
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

【概要】

- ・本年度より、県は、新規事業として「大腸がん検診特別推進事業」を行う。市町村が特定年齢の者等に対し、大腸がん検診キット（便潜血検査）を直接送付又は健康相談員等を介し直接配布する場合に必要な事業費等の一部を県が支援する。
- ・大腸がん検診一次検診の実施方法については、健対協の過去のデータをもとに1日2個法と2日法のデータから受診率、要精検率、がん発見率等について比較検証を行い、検討を行うこととなった。

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

大腸がん対策専門委員会の新しい委員長に木村先生をお願いすることとなりました。

ここ数年来、1日2個法と2日法の比較について検討してきました。他県で1日2個法を導入するところはなく、鳥取県だけが実施しています。将来、全国集計に鳥取県のデータが外れることになりはしないかと心配しています。反省しながら

検診を進めていく必要があると考えます。

〈古城部会長〉

1日2個法がかなり定着したところですが、再度、1日2個法と2日法の精度について検証を行い、どういう方向で検診を進めていくのか検討していきたいと考えます。

〈木村委員長〉

今年の4月から委員長をさせて頂くこととなりました。よろしく申し上げます。

鳥取県の女性の犬腸癌死亡率は全国で一位ということですが、何とかして、死亡率低下に努めたいと思います。

また、6月にはがん対策推進条例が公布されましたので、受診率50%達成に向けても努めていきたいと思っています。

報告事項

1. 平成21年度各地区大腸がん注腸読影委員会の実施状況について

東部（岡田委員）－13回の読影会を行い、18症例を読影した。その結果、異常なし8件、要内視

鏡検査7件であった。大腸がん検診従事者講習会を3月5日開催。

中部（音田委員）－1回の読影会を行い、1症例を読影した。その結果、憩室1件であった。大腸がん検診従事者講習会を2月25日開催。

西部（遠藤委員）－28回の読影会を行い、110症例を読影した。その結果、異常なし51件、要内視鏡検査30件、その他29件であった。

大腸がん検診従事者講習会を3月23日開催。

厚生労働省より平成20年3月31日付で通知があった「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」によると、全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査の併用による精密検査を実施するものとする、となっている。鳥取県は、大腸がん検診が開始された平成4年度より、暫定措置として注腸エックス線検査も認め、注腸エックス線写真は各地区読影会で読影がなされ、その読影結果により、要内視鏡検査となった者については、内視鏡検査を受けて頂いている。

読影件数は年々減少しているが、西部では注腸エックス線検査の症例がまだ約110例ある。

現在、精密検査医療機関として大腸内視鏡検査が出来る医療機関と注腸エックス線検査医療機関を「鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録」と「大腸がん注腸エックス線検査医療機関登録」としている経過もあり、今後の検討課題である。

2. 大腸がん検診特別推進事業について：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

本年度、県は、大腸がん検診に受診率向上に特に力を入れて取り組むこととし、市町村の大腸がん検診受診率向上を支援する補助事業を新設した。現時点で6市町が活用予定としている。この事業は他県に例を見ない鳥取県独自の先進的な事業である。まずは平成24年度まで実施する予定と

しており、その後は実施状況等勘案して検討することとしている。

○事業内容：市町村が特定年齢の者等に対し、大腸がん検診キット（便潜血検査）を直接送付又は健康相談員等を介し直接配布する場合に必要な事業費の一部を県が支援する。併せて、検体回収率を高めるため、検診キット（検体）を提出しやすい環境の整備に必要な費用を県が支援（補助）する。

○事業実施：市町村（集団検診）

○補助対象者：市町村が①新たに大腸がん検診の対象年齢となる40歳、②大腸がんの罹患率が急増し始める年齢60歳の者、又は③市町村が地域の実情に合わせ、より有効と判断する特定年齢又は特定地域の者

○実施時期：9月以降

○回収場所については、この事業を実施する市町村が、地域の事情等を踏まえて決めて頂くこととしていたが、検体回収率を高めるため、市町村庁舎、公民館、薬局等において受け付けされることが想定される。

以下の意見があった。

- ・検体の回収は、医療機関でもいいのではないか。医療機関であれば、回収分をそのまま検査機関に渡すことができ、回収期間の短縮となる。
- ・この事業の成果を検証するため年代別の受診率をきちんと集計して頂きたい。

3. 健康づくり文化創造・がんを知る県民フォーラムについて：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

9月20日（月）、とりぎん文化会館において、大腸がん撲滅キャンペーンを展開するNPO法人ブレイブサークル運営委員会と連携し、「健康づくり文化創造・がんを知る県民フォーラム」を開催する。

大腸がんをメインテーマとし、食・運動を含めたがんの一次予防やがん検診の重要性など、がん

についての正しい知識の普及を図ることを目的に開催する。

また、9月7日（火）、米子コンベンションにおいて、大腸がんをテーマに木村委員長に講演をして頂くこととなっている。

この他に、県はNPO法人プレイブサークル運営委員会と連携して、大腸がん検診受診勧奨のテレビCMを作り、年内に放映する予定にしているほか、鳥取県と島根県の連名のがん検診受診率向上のテレビCMを作る計画もある。

4. 鳥取県がん対策推進条例について：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

がん対策向上を目的として議員から提案された「鳥取県がん対策推進条例」が6月23日、6月定例県議会本会議において全会一致で可決され、6月29日付けをもって公布された。

都道府県によるがんの条例制定は本県で9例目である。

委員から、がん検診受診率の高い国においては、子供ころからのがん予防教育に重点をおかれている。その点について今後取り組んではどうかとの提案があった。これに対し、県から来年度に向けて教育委員会とも相談しながら、前向きに検討していきたい。その際は、協力をお願いしたい。とのことだった。

5. 平成20年度大腸がん検診発見がん患者確定調査結果（最終版）について：岡田委員

- (1) 確定癌は136例であった。
- (2) 早期癌は89例、進行癌は47例であった。早期癌率は65.4%であった。
- (3) 前年度受診歴を有する進行癌は14例であった。前年度の検診結果は10件が異常なし、4件が要精検であった。各地区で症例検討を行って頂き、読影上の問題点等について検討して頂く。

・前年度受診歴を有する進行癌で施設検診の直腸癌が多いのはなぜか。

・今年度は西部の進行癌が他の地区に比べ多いのはなぜか。

過去のデータも収集して、解析してみることとなった。

・治療方法の集計は、開腹手術、腹腔鏡下手術、内視鏡治療、その他不明で集計することとなった。

6. 平成21年度米子市大腸がん検診による発見がん調査について：木村委員長

平成21年度米子市大腸がん検診で発見されたがんは、進行癌22例、早期癌17例、計39例であった。そのうち、逐年検診発見進行癌が8例と多いことから、今回調査を行った。部位は上部が多かった。深達度はmp 3例、ss以上5例であった。StageはⅣが1例、Ⅲが2例、Ⅱが4例、Ⅰが1例であった。前年度の便潜血検査は全て陰性で、検査時期、検査機関も見てみたが、特に気になるところはなかった。

受診者に採便の指導を丁寧に行っていく必要があるのではないかという意見があった。

協議事項

1. 大腸がん一次検診の実施方法について

大腸がん検診の一次検診の実施方法については、平成20年3月に国が示したがん検診実施のための指針において、免疫便潜血検査2日法で行うこととされている。

鳥取県では、本会において1日2個法が推奨され、平成15年度より一部の市町村で導入され、平成18年度以降は全市町村で採用されているところである。この度、今後も1日2個法を継続するかどうか検討を始めてはどうかという意見があった。

・平成15年当時、本会において1日2個法を採用するとした大きな理由は、1日2個法の方が簡便であり、受診率向上につながると推測したことによる。

・このことについて、健対協の過去のデータをもとに、1日2個法と2日法の受診率、がん発見率等について比較検証を行うこととなった。

大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 平成22年 8月28日 (土)
午後 4時～午後 5時35分

場 所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町

出席者 92名

(医師：87名、看護師・保健師：3名、
検査技師：2名)

岡田克夫先生の司会により進行

講 演

鳥取県医師会理事 米川正夫先生の座長によ
り、松島病院大腸肛門病センター松島クリニック

診療部長 鈴木康元先生による「大腸内視鏡挿入
攻略法」の講演があった。

症例提示

木村 修先生の進行により、3地区より症例を
報告して頂いた。

- 1) 東部症例 (1例) : 瀬川医院 瀬川謙一先生
- 2) 中部症例 (1例) : 鳥取県立厚生病院
川田壮一郎先生
- 3) 西部症例 (1例) : 米子医療センター
木村 修先生

厚生労働省委託事業 日本医師会女性医師バンク

日本医師会女性医師バンクは、就業を希望する医師に条件にあった医療機関を紹介し、勤務環境の調整を含め採用に至るまでの間の支援を行い、再就業後も様々なお相談に応じます。

日本医師会女性医師バンクの特色

- | | |
|------|---|
| 無 料 | 登録・紹介等、手数料は一切いただきません。 |
| 個別対応 | 就業に関するご相談は、コーディネーター（医師）が、丁寧に対応いたします。 |
| 秘密厳守 | ご登録いただいた情報は、適正に管理し、秘密は厳守いたします。 |
| 日本全国 | 日本全国の医師、医療機関にご利用いただけます。（会員でない方も登録できます。） |
| 予備登録 | 今すぐに働く予定のない方もご登録いただけます。 |

ご連絡・お問い合わせ先 日本医師会女性医師バンク 中央センター

〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16 日本医師会館B1

TEL 03-3942-6512 FAX 03-3942-7397